

太平洋イカ類漁場開発調査

中田 凱久・田村 真通・鈴木 史紀

佐藤 晋一・涌坪 敏明・兜森 良則

発表誌名

イカ釣漁場開発調査資料Ⅷ(昭和58年3月) P. 41～76, 「昭和57年度太平洋イカ類漁場開発調査結果」及び P. 1～23, 「昭和57年度のアカイカ釣漁業におけるアカイカ漁況と資源について」。

抄 録

昭和57年7～10月の期間において、試験船開運丸(調査海域北緯 $38^{\circ}-53'$ ～ $43^{\circ}-04'$, 東経 $142^{\circ}-34'$ ～ $161^{\circ}-00'$)及び、東奥丸(北緯 $40^{\circ}-02'$ ～ $42^{\circ}-16'$, 東経 $144^{\circ}-47'$ ～ $152^{\circ}-02'$)によってスルメイカアカイカ等の漁場環境, イカ類分布の状況及び群の生物的特性等について調査を行った。

1. スルメイカ及びアカイカ漁場における環境特性

東経 143° ～ 160° の海域内の水温 15°C 以上 18°C 以下の海域面積の大小から漁場形成条件の良否を過去と比較したところ, 8月, 10月は平年並で, 9月は平年より狭く, 潮境形成が顕著であった。

一方, 梅雨明けが8月2日と平年より1週間程遅かったことから, 初漁も7月中旬の後半にずれ込んだ。

なお, スルメイカ漁場となる津軽暖流の張り出し及び水温はほぼ平年並であった。

2. スルメイカ, アカイカの分布

(1) 延116回の漁獲試験により, スルメイカ40尾及びアカイカ122.488尾が釣獲されたが, この結果から, スルメイカの分布は著しく稀薄であった。

(2) アカイカの分布の中心は 145°E , 155°E , 160°E を中心とした海域及び 157°E を中心とした海域にみられたが, 8月の平均CPUEで55年, 56年に比較すると分布密度はかなりおちこんでいた。

3. アカイカ来遊群の性状

魚体は 155°E 以西の沿岸より海域では昨年とほぼ同じかやや大きく, 155°E 以东の沖合域では小型化していることが特徴であった。

4. アカイカ来遊資源量水準

57年の青森県におけるアカイカ水揚量は28,000トンで, 前年(38,000トン)を大幅に下回ったが, これは着業船隻数の減少等, 漁獲努力量の減少によるもので, 来遊資源量水準そのものは, 平年並であった。